

平成 19 年 5 月 18 日

## 第 1 回 DS 研究会 (仮称) のご案内

共 催： 日本学術会議 (国際サイエンスデータ分科会)  
国立科学博物館、情報知識学会CODATA部会

場 所： 国立科学博物館講堂 (上野)

[http://www.kahaku.go.jp/visitor\\_info/ueno/access\\_area.html](http://www.kahaku.go.jp/visitor_info/ueno/access_area.html)

当日は休館日のため通用門よりお入り下さい。

日 時： 平成 19 年 5 月 21 日 (月) 15:00-18:30

プログラム 別添

近年、持続的成長や情報社会をテーマに開催された国連サミットWSSDやWSISを契機に、欧米だけでなく、印、CIS諸国、伯等々、グローバルな規模での知的基盤の構築と連携が加速しつつあります。

<http://www.un.org/events/wssd/>

<http://www.itu.int/wsis/index.html>

国際科学委員会ICSUの常設委員会である科学技術データ委員会CODATA/ICSUIは、そうした国際活動の中心であり

<http://www.codata.org/>

<http://www.icsu.org/>

日本学術会議は、1966年のCODATA創設時より40年余の間、その活動を支えてまいりました。

しかしながら、そうした海外の活動に組織的に対応すべき日本国内の知的基盤、データベースの連携は必ずしも十分ではありません。学術的には価値の高い夫々の知的基盤も目的に応じた戦略的な連携なしには新たな価値の創出へはつながりません。今期の学術会議では、CODATA対応の組織として国際サイエンスデータ分科会が組織されましたが、この分科会を起点として、国際的な活動を視軸に据えつつ日本的な特徴を有する知的基盤と連携を確立することを目的に活動をしたいと考えておりました。

今回、2006年CODATA Prize受賞者のDr. John Rumble, Jr. の来日を機会に、国立科学博物館、情報知識学会CODATA部会他と協力して第1回のDS研究会 (仮称) を企画しました。明治以降、約130年の間、一般市民にとって日本の文化芸術の中心のひとつであった上野の森から「世界の知の森」形成への第一歩を踏み出したいと思えます。

会場の準備の都合もありますので御出席いただける場合には、ご予約を添付様式にてお知らせ下さい。また今後の活動についてのご意見や第2回以降のご提案は大歓迎ですので、ご意見、ご提案のある方は、簡単な内容メモを2日前までにお送り下さい。

=====

[返信様式]

研究会に

参加する

次席する

懇親会に

参加する

次席する

DS研究会からの今後の連絡を

希望する

希望しない

希望される場合

ご氏名

ご連絡先

=====

企画世話人 岩田修一

〒277-8563 柏市柏の葉5-1-5 東京大学 環境棟222号室

Tel/Fax : +81-3-5841-6985(本郷キャンパス)

Tel/Fax:+81-4-7136-4604(柏キャンパス)

Email:iwata@k.u-tokyo.ac.jp

## 第1回 DS研究会 (仮称)プログラム

共催： 日本学術会議 (国際サイエンスデータ分科会)  
国立科学博物館、情報知識学会CODATA部会

場所： 国立科学博物館講堂 (上野)

[http://www.kahaku.go.jp/visitor\\_info/ueno/access\\_area.html](http://www.kahaku.go.jp/visitor_info/ueno/access_area.html)

当日は休館日のため通用門よりお入り下さい。

日時： 平成19年5月21日 (月) 15:00-18:30

最新情報は下記のサイトをご覧ください

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsik/bukai/codata/DSKenkyukai.html>

司会：田辺義一氏 (国立科学博物館)

15:00-15:05 開会挨拶 佐々木正峰氏 (国立科学博物館長)

15:05-15:15 日本の知的基盤の連携に向けて 岩田修一氏 (東京大学)

15:15-15:45

日本の技術革新経験を如何に知識基盤化するかー博物館との連携?

清水慶一氏 (国立科学博物館)

司会：大澤幸生氏 (東京大学)

15:40-16:15

自然史コレクションデータベースの構築と活用：豊富なデータからの展望

松浦啓一氏 (国立科学博物館)

16:15-16:45

美術館データベースの構築と活用：豊富なデータからの展望 (仮題)

田良島 哲氏 (東京国立博物館)

司会：長島 昭氏 (横浜国立大学)

16:35-17:15

Growing importance of data work in advancing science and society

John Rumble, Jr.氏 (IA)

司会 岩田修一氏 (東京大学)

17:15-18:30 国際活動報告

(1) GEOおよびわが国のデータ統合解析システム (DIAS)、ICSU/SCIDの概要

小池俊雄氏 (東京大学)

(2) Data Science Journal報告

国沢隆氏 (東京理科大学)

(3) CODATA TG材料活動予定報告

芦野俊宏氏 (東洋大学)

(4) GICSI関連

鎗目雅氏 (東京大学)

(5) Global Scientific Challenges: Perspectives from Young Scientists報告 (ICSU)

大武美保子氏 (東京大学)

(6) The Steering Committee of the Science for Health and Well-Being Initiative(ICSU)

大武美保子氏 (東京大学)

(7) NXOプロジェクト活動報告

木下幹康氏 (電力中央研究所)

(8) その他 (CODATA、SCA、次回の担当他)

18:30- 懇親会 (銀座ライオン上野広小路店)

<http://r.gnavi.co.jp/g008200/map1.htm>

敢えて略称を用いたDS研究会 (仮称)は、Data Science, Democratic Society, Decent Service, Digital Society, Design Science, Data Security, Digital Safety, Data Serendipity, Data Spirit, Data Soul, Divide Solution, Design Solution, Dreamy Solution などを含意しています。